中学生・高校生の平和意識の形成

5年　●●　　附属担当教員　●●

○目的・意義

平和意識の形成にどんな要素が関与しているのか、興味を持ったことが本研究の始まりである。本研究は「過去の平和に関する経験」と「現在の平和意識」の関係を調査し、教育を含む経験・環境が平和意識の形成にどのように関与するかを考察するものである。現在の平和意識を調査した先行研究はあるが、過去の経験との相関を考察したものはない。また、有効な平和教育のあり方に示唆を与える。さらに、平和意識の形成の過程を探究することは、その他の意識形成の過程を明らかにできる可能性があるという点で、本研究には意義がある。

○探究したいこと

【過去の平和に関する体験】
・平和、戦争に関する話を聞いた相手（親戚、戦争体験者、学校の先生など）
・平和教育の内容（広島などの現地での学習）
・経験した時期（幼少期・小学生・中学生・高校生）
・授業内か授業外（教育と家庭）・広島への修学旅行（事前学習と現地学習）

どう影響するのか →

【現在の平和意識】
・平和の定義
・普段、平和に関することに接する機会
・平和、戦争に関する知識
・平和に関する事柄の学習・活動意欲

○仮説

本物の体験をした人は高い平和意識を持つ
・戦争体験者の話を多く聞いた
・現地で体験　　・修学旅行で行った
・親族から平和や戦争についての話を聞いた

○方法

質問紙による全数調査
対象：奈良女子大学附属中等教育学校
1年生（中1）121人、3年生（中3）110人、5年生（高1）92人、計325人

○質問紙

調査対象が本校生徒のみのため、中学・高校の授業内で体験したことは項目に含めない。知識を問う項目では事実でない事柄を含め、回答の信頼性を確認できるようにした。平和意識を問う項目は、平和学で提唱されている「積極的平和」の概念を参考にした。

○結果

【過去の平和に関する体験】

※1

※1

※1
1…体験しなかった　2…テレビ番組、ラジオ　3…新聞
4…インターネット　5…映画、ドラマ
6…漫画、小説などの本　7…雑誌　8…戦争体験者の話
9…戦争跡地、被爆地、慰霊碑などの見学、参拝
10…絵本、紙芝居　11…折り鶴の製作
12…歌の鑑賞や歌唱　13…絵や写真の鑑賞
14…絵の制作や造形活動　15…平和資料館などの見学
16…友人との討論　17…その他

小学校では実感を伴う体験が多い（テレビ・ラジオ、戦争体験談、戦争跡地等見学、折り鶴制作、平和資料館見学など）

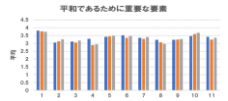
小学校では、先生やその他の戦争体験者に話を聞いた人が多い。

テレビ・ラジオ・漫画・小説などのメディアは小学校、中学校ともに多い。

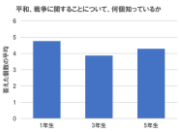
実感を伴う体験（戦争体験談、戦争跡地等見学、折り鶴制作、平和資料館見学など）は授業内が多い。
メディアによる体験（テレビ・ラジオ・漫画・小説など）は授業内・外の差が小さい。

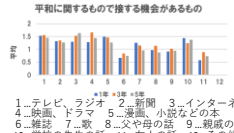
幼少期、中学校では聞かなかった、体験しなかった人が多い

【現在の平和意識】



1…戦争が起こっていない　2…経済的搾取がない　3…貧困がない
4…格差がない　5…公正に法が施行されている　6差別がない
7…領民地支配がない　8…経済的・外交的な地率がない
9…医療システムが充実している　10…基本的人権が尊重されている
11…十分な教育が受けられる



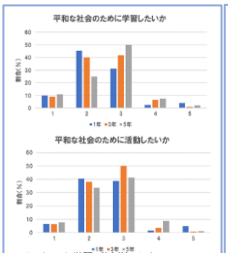


1…テレビ、ラジオ　2…新聞　3…インターネット
4…映画、ドラマ　5…漫画、小説などの本
6…雑誌　7…歌　8…父や母の話　9…親戚の話
10…学校の先生の話　11…友人の話　12…その他

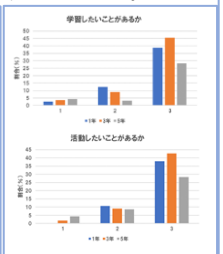
「消極的平和」だけではなく多面的に平和をとらえている。

学年間で大きな差はない。

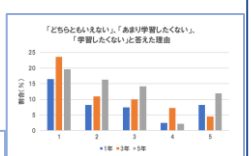
全体的に点数が低く、平和、戦争に関するものに接する機会が少ない。



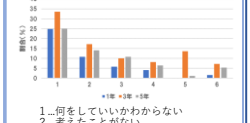
1…とても学習（活動）したい
2…学習（活動）したい
3…どちらともいえない
4…あまり学習（活動）したくない
5…学習（活動）したくない



1…すでに学習（活動）を始めている
2…今はやっていないが、いずれやりたい学習（活動）が明確にある
3…わからないが何か学習（活動）したい



1…何を学んでいいかわからない
2…考えたことがない
3…面倒くさい
4…いま平和だから必要ない
5…その他



1…何をしていいかわからない
2…考えたことがない
3…面倒くさい
4…関わりたくない
5…いま平和だから必要ない
6…その他

「学習（活動）したい」、「どちらともいえない」という回答が多い。「とても学習（活動）したい」「学習（活動したい）」と答えていても「何をしたらよいかわからない」という回答が多く、「どちらでもない」「あまり学習（活動）したくない」「学習（活動）したくない」と答えていても「何をしていいかわからない」という回答が多い。

【過去の体験と現在の平和意識の関係】

血縁者から平和、戦争に関する話を聞いた経験と平和への学習意欲

		とても学習したい	学習したい	どちらともいえない	あまり学習したくない	学習したくない
血縁者からの話	あり	7. 74%	26. 93%	25. 39%	1. 55%	1. 86%
	なし	2. 17%	10. 84%	14. 86%	3. 72%	0. 62%

血縁者から平和、戦争に関する話を聞いた経験と平和への活動意欲

		とても活動したい	活動したい	どちらともいえない	あまり活動したくない	活動したくない
血縁者からの話	あり	4.95%	26.93%	27.24%	2.17%	1.24%
	なし	1.86%	10.84%	16.10%	2.17%	1.24%

先生から平和、戦争に関する話を聞いた経験と平和への学習意欲

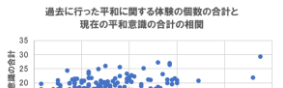
		とても学習したい	学習したい	どちらともいえない	あまり学習したくない	学習したくない
先生からの話	あり	6.81%	32.51%	34.98%	4.02%	2.17%
	なし	3.10%	5.26%	5.26%	1.24%	0.31%

先生から平和、戦争に関する話を聞いた経験と平和への活動意欲

		とても活動したい	活動したい	どちらともいえない	あまり活動したくない	活動したくない
先生からの話	あり	5.26%	32.20%	37.46%	3.41%	2.17%
	なし	1.55%	5.57%	5.88%	0.93%	0.31%

血縁者から話を聞かなかった人も先生から話を聞かなかった人も多くないが、先生から話を聞かなかった、かつ「あまり学習（活動）したくない」は先生から話を聞いたことがある、かつ「あまり学習（活動）したくない」と答えた人より少ない。一方、血縁者から話を聞かなかった、かつ「あまり学習（活動）したくない」は血縁者から話を聞いたことがある、かつ「あまり学習（活動）したくない」と答えた人より多いまたは同じ。

→ 先生よりも血縁者のほうが、平和への学習・活動意欲に与える影響が大きい。



「過去の体験の個数の合計」と「現在の平和意識の合計」の相関係数
r=0.308491051であり、相関があると言える

↓

過去に行った平和に関する体験が多いほど、現在の平和意識が高い

○考察

・平和、戦争について学ぶ機会は小学校の時期が最も多い。メディアから学ぶ機会は授業内外、時期を問わずあるが、実際に体験することは小学校の授業内が多い。平和学習について、小学校は、中学校や家庭とは異なっている。体験を通した教育により平和に対する意識が小学校時にいったん形成されると、中学生・高校生間はほとんど変化しないので、その重要性が問われる。
・いろいろな人から話を聞く機会があるが、特に血縁者から戦争や平和に関する話を聞いた場合に平和意識が高まるという結果は興味深い。家族間での対話が減っている現状は大切な学びの機会が失われることにつながりそうだ。
・学習・活動意欲はありながら何をしていいかわからない人が多い実情をふまえ、平和な社会の実現のためには、具体的に出来ることを提示する必要がある。家庭・学校（中学・高校）・社会がその役割を担う。

○今後の課題

・仮説の検証がうまくいかなかったのは、平和意識を、平和の定義以下学習・活動意欲までだけの総計としたことにあるかもしれない。学習・活動意欲について具体的な項目を増やした質問紙を作成し、現在の平和意識を計る方法を再検討したい。今回実施しなかった学年で調査する。
・質問紙による量的調査に加えて、個人へのインタビュー調査を実施したい。それにあたり、質的研究の意味について学んだうえで、言語による表現から過去の経験の意味づけや平和の意識の深さなどを読みとり、仮説の検証をすすめたい。

【参考文献】伊藤泰郎「広島県の小中学生の平和学習の経験および戦争と平和に関する知識や意識の分析」（『現代社会学』13, 2012 年）、村上 登司文「平和形成方法の教育についての考察－中学生の平和意識調査を手がかりに－」（『広島平和科学』28,2006年）　村上 登司文「戦争体験継承が平和意識の形成に及ぼす影響－ 中学生に対する平和意識調査の時系列的分析－」（『広島平和科学』38,2016年）

【謝辞】本研究を進めるにあたり、奈良女子大学文学部の●●先生にご助言をいただきました。深く感謝申し上げます。